

ABSTRACT

PROBLEM TO BE SOLVED: To solve trouble such as article nondelivery, breakage, returning, repayment, no money reception after article delivery, etc., in a transaction accompanied by remittance. **SOLUTION:** A remittance is received and held at a repeating base station, a report on the temporary reception is sent to the opposite side, and an article is sent and received, so that the money is actually received on a contract day on condition that there is no trouble. In response to a report on trouble occurrence, the repeating base station follows a procedure for holding the money. After solution is reported by both the sides, the held money is actually received.

CLAIMS

No Claims were found.

DESCRIPTION

Text Not Available.

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-229434

(P2001-229434A)

(43) 公開日 平成13年8月24日 (2001.8.24)

(51) Int.Cl. ⁷	識別番号	F I	データベース ⁷ (参考)
G 0 7 D 9/00	4 3 6 Z E C 4 6 1	G 0 7 D 9/00	4 3 6 B 3 E 0 0 1 Z E C 3 E 0 4 0 4 6 1 Z 5 B 0 6 5
G 0 6 F 17/60	4 1 2 4 2 4	G 0 6 F 17/60	4 1 2 9 A 0 0 1 4 2 4
審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 2 頁)			

(21) 出願番号 特願2000-74903 (P2000-74903)

(22) 出願日 平成12年2月14日 (2000.2.14)

(71) 出願人 500113947

戸枝 茂隆

東京都豊島区巣鴨1丁目30番8号

(72) 発明者 戸枝 茂隆

東京都豊島区巣鴨1丁目30番8号

Fターム (参考) 3E01 EB02

3E040 CB01 CB10 DA10 EA01

5B055 CB09

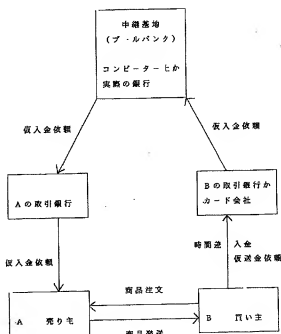
9A001 BB04 JJ62 KK60 LL02 LL09

(54) 【発明の名称】 時間差送金

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】送金を伴う取引で、商品未着、破損、返品、返金。商品を発送したが入金がないなどのトラブルを解決する。

【解決手段】送金を受け、その代金を中継基地に保留し、相手方には、仮入金の報告が入り、商品を発送し受取り、トラブルがなければ契約日に本入金になる。トラブル発生の場合により、中継基地は、代金の留保手続きに入る。双方解決報告により留保金は本入金される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 送金を伴う取引で、時間差を利用した安全取引、時間差送金。

【請求項2】 送金を受け、そのお金を一時プールする中継基地（プールバンク）をつくり時間差を利用し、双方クレームがなければ仮入金が、自動的に入金になる方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 送金を伴う取引で、時間差を利用するための中継基地を作り、取引双方の安全取引を支援する方法。

【0002】

【従来の技術】 現在の送金は、自動的に相手口座に入金になる。クレームが発生した場合、たとえば、送金したが商品が届かない、破損、連絡不能、または商品発送したが入金にならなかったなどのトラブルが多発している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 送金を伴う取引で、入金したが、商品未着、破損、返品、返金、また商品発送したが入金が無かったなどのトラブルを解決しようとした。

【0004】

【課題を解決するための手段】 送金を受け、そのお金を

一時中継基地にプールし、相手口座に仮入金し、時間差を利用し、クレームが無ければ自動的に本入金になり、双方の金銭トラブルを解決することができる。

【0005】

【発明の実地の形態】 金融機関のコンピュータ上に送金を一時プールする機関をつくり時間差を利用する安全取引のシステム。

【0006】

【実施例】 例を挙げると、インターネットで商品を注文、次に送金手続き、3番目には送金を受けた金融機関が、コンピュータ上に中継基地を作り、仮入金状態で保留し、相手金融機関の口座に仮入金報告する。4番目には、商品の注文受けたひとが、仮入金を確認したら商品発送、5番目は注文者に商品届きクレーム申し出期間をすぎると仮入金の本入金になる。クレームがあった場合、金融機関と注文主へ連絡し商品発送、両者不満がなければ仮入金もどる。

【0007】

【発明の効果】 送金を伴う取引で、双方のトラブルを最小にし、社会の健全化にやくだつ。

【図面の簡単な説明】

【図1】 中継基地を利用した時間差送金安全取引図

【符号の説明】

1 Aは売り主

2 Bは買い主

【図1】

